

21年ぶりの地元開催

大相撲一関場所に270人の力士が集結

平成27年夏巡業大相撲一関場所(同実行委員会主催)は8月17日、市総合体育館で開催されました。横綱・白鵬をはじめ、盛岡市出身の十両・錦木など総勢270人の力士が集結。巨体がぶつかり合う迫力の取組が行われ、この日を心待ちにしていた約2,500人の観客を魅了しました。市内での開催は、平成6年以来21年ぶりです。

このほか、遠藤人気力士による「ちびっこ稽古」が行われ、会場を沸かせました。稽古をつけてもらった千厩町千厩の逸見奏心君は「近くで見るとお相撲さんの体は熱く大きかった」と興奮気味に語りました。



大東町下内野に「カジカの里」復活願ひ
日大生らが砂鉄川で「石磨き大会」に参加

下内野自治会が主催する「石磨き大会」は8月9日、砂鉄川で開かれました。下内野地区は砂鉄川の上流に位置し、以前は淡水魚のカジカが多く生息。生活排水などで汚れた川をきれいにし、かつての清流を復活させることが同大会の目的です。当日は日本大学生物資源科学部の学生や住民など120人が参加。自然に優しい「古縄たわし」を使い、下流から上流まで約500mにわたって石を磨きました。

日本大学4年の平田亮介さん(21)は「手をかけないと里山の豊かな自然は守れない。石を磨くことで少しでも環境の改善につながれば」と話してくれました。

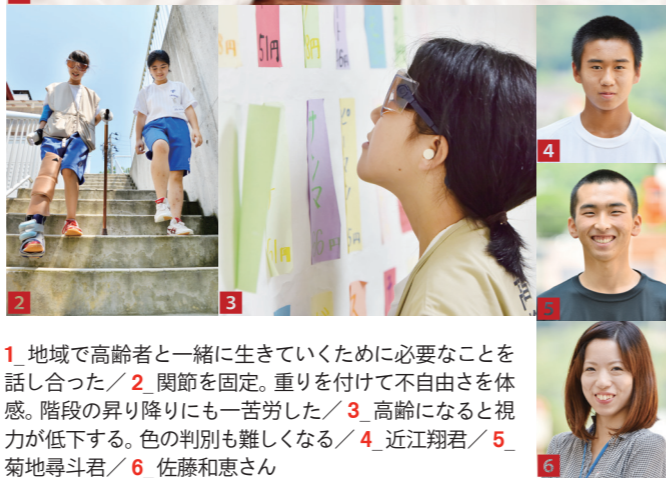
高齢者にやさしいまちは、全ての人にやさしいまち
藤沢で福祉の心を学ぶ「ケアチャレンジ」

ふじさわ地域包括ケア研究会(高木史江会長)が主催する「ケアチャレンジ」は7月28日、藤沢町の「老健ふじさわ」で開かれました。市内の中高生20人が高齢者疑似体験などを通してケアの心を学び、自分たちが普段からできることは何かを考えました。

生徒たちは、県高齢者総合支援センター玉山公一副センター長の指導の下、疑似体験装置(耳栓、特殊眼鏡や手足の重りなど)を装着。新聞を読んだり、箸を使ったり、普段できることが思うようにできないことに驚き、加齢による身体的変化(筋力、視力、聴力などの低下)に理解を深めました。

3年連続で参加した近江翔君(藤沢中3年)は「体の不自由な祖父の力になりたいと思って参加した。困っている人を見掛けたら、声を掛けてあげたい」と話していた。また、菊地尋斗君(千厩高校1年)は「将来は福祉の仕事に就きたい。ケアチャレンジに参加して、あらためて看護師になりたいという思いが強くなった」と意欲を高めていました。

生徒たちの世話をした同研究会の佐藤和恵さん(高齢者総合相談センターふじさわ)は「わたしも学生時代、ケアチャレンジに参加しました。医療や福祉の分野はやりがいのある仕事です。高齢者が安心して暮らせるまちと一緒に作っていききたいですね」と話していました。



1 地域で高齢者と一緒に生きていくために必要なことを話し合った / 2 関節を固定。重りを付けて不自由さを体感。階段の昇り降りにも一苦労した / 3 高齢になると視力が低下する。色の判別も難しくなる / 4 近江翔君 / 5 菊地尋斗君 / 6 佐藤和恵さん

首都圏からのツアー客も多数来訪
多彩なイベントで「川崎の夏」を満喫

「川崎ならではの夏」を満喫できる2つのイベントが川崎地域で開かれました。

1つめは、7月26日に川崎防災センターと北上川で開かれた「川っ子祭り」(NPO法人北上川サポート協会主催)です。北上川とのふれあいが目的で、今年で4回目の開催。約200人の参加者が、カヌー、水上バイク体験、木造船「長生丸」での遊覧や人間カーリング「タライでトライ!」などを楽しみました。また、恒例の流しそめんも企画され、会場は大いに盛り上がりました。

盛岡市から訪れた高橋美音さん(23)は、友人2人とカヌーに初挑戦。「スリルがあって楽しかった。普段は気軽に乗れないので良い体験になった」と笑顔で話してくれました。

2つめは、8月7日から9日の3日間に行われた「夏休みツアー」(I-Style一関市かわさきツアー実行委員会主催)。新たな一関ファンを獲得するのが同ツアーの狙いです。

同ツアーには、首都圏からの子供連れなど11人が参加。初日は田んぼでメダカ観察したほか、農家レストランで郷土料理「カニぱっと」などを会食しました。2日目以降は、座禅、夏野菜の収穫、豆腐作りや星空の観察会などを体験。川崎の自然や伝統料理を楽しみ、川崎でしか体験できない夏を堪能していました。



1 初めてのカヌーに挑戦 / 2 流しそめんを味わう参加者 / 3 水しぶきを上げる水上バイク / 4 会場を沸かせた「タライでトライ!」 / 5 早朝から座禅を組み精神統一 / 6 田んぼでメダカを観察するツアー客

東山町松川で「大相撲東関部屋フェスティバル」
地域住民が東関部屋力士との触れ合い楽しむ

「大相撲東関部屋フェスティバル」は8月8日、松川市民センターで行われ、集まった地域住民など200人が力士との交流を楽しみました。

参加者らは、東関部屋の朝稽古を見学。迫力ある張り手やぶつかり稽古に、大きな拍手が沸きました。力士との力比べでは、タイヤ引きや綱引きなどで競って力士の力強さを体感。そのほか、餅まきや東関部屋特製ちゃんこの試食も行われ、力士と触れ合えるイベントを満喫しました。

1989年から続く同部屋の夏合宿。東関大五郎親方は「交流を通じて、相撲を身近に感じてほしい」と願っていました。



消防救急デジタル無線の整備が完了
デジタル無線で安全・安心なまちづくりを

消防救急デジタル無線の運用開始式は7月31日、市消防本部で行われ、関係者など約70人が運用開始を祝うとともに安全・安心なまちづくりへの決意を新たにしました。

2016年5月に「アナログ無線波」が廃止されるため、11年10月からデジタル無線の整備を開始。約11億2,200万円をかけて、基地局と簡易基地局の9カ所を整備し、卓上型固定無線装置10台、車載型無線装置63台、可搬型無線装置6台、携帯型無線装置50台を設置しました。整備により、聴き取れる範囲は拡大。クリアな音声通話が可能になり、情報漏えい防止も強化されました。安全・安心なまちづくりの一助になると期待されています。